安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.23　2015.2.18
TEL62-4565

建て御柱に福を願う

1月11日の朝7時半、成相コミュニティセンターには大勢の区民が集まった。福俵をまつった「建て御柱」が倒されるのと同時に、縁起物である「巾着袋」や「縁木」を持ち帰り、1年間の無病息災を願う。

建て御柱には長い縄が何本もつけられ、大勢の人が力を合わせて倒していく。前日の雪で足元が悪い中、けがのないよう安全第一で作業が進む。御柱が無事倒されると、すぐに皆さんが好みの巾着袋などを取るために駆け寄り、満面の笑みで持ち帰った。

色とりどりの可愛い巾着袋は「成相区福俵保存会」の皆さんが年末に集まり、持ち寄った端切れを使い手縫いで作っている。「中学校PTAのお母さんたちも参加してくれてにぎやかよ、ぜひ一緒にどう?」と誘っていただいた。地区外からの参加も歓迎とのこと、あめ市や福俵に縁のない地区が多いのでありがたい。

心に響くケーナの音色

堀金公民館は12月13日、ケーナ奏者の吉良健一朗さん（三郷在住）を招き、玄関ロビーでミニコンサートを開いた。

「ケーナ」は、南米のペルー、ボリビアなどが発祥の縦笛で、葦（あし）で作られていたが、現在は竹や木で作られるものが多い。3オクターブ以上の音域がありほとんどの曲が演奏できる。「フォルクローレ」と呼ばれるラテンアメリカ諸国の民族音楽の演奏に多く使われる楽器である。

吉良さんは、演奏の他に『信州そば切り音頭』などの作曲をしていて、ユーモア溢れる語りを交えながら『ユリの木の花の歌』『心たち』といったオリジナル曲の歌唱も披露した。

コンサートに立ち寄った20人余りの観客は、ケーナの名曲『コンドルは飛んで行く』など数々の演奏を堪能して、『フォルクローレ』特有の高原の香りが漂う、心に染み入るような音色に浸っていた。

欅

安曇野市が合併して、もうすぐ10年。十年一昔というが、もうそんなに時が経ったのかというのが正直な印象。5つの町村の対等合併という、ある意味特殊な方法で一緒になったので、良かったところも悪かったところも当然あるだろう。新庁舎も建てられ、節目として新たなスタートとなるよう、市民の目で見守っていきたい。（T・K）

有明山神社（穂高有明）の「裕明門」に安置されている白・黒2体の御神馬（ごしんめ）が塗り直されました。

同神社宮司の等々力満さんによると、その過程で、この御神馬も門の制作棟梁である清水虎吉により明治35年に作られたものと判明したそうです。（N・N）

福寿草を庭から掘り出して部屋に置くと、たちまち美しい姿を現わしてくれた。春はゆっくりと近づいている。三寒四温だ。しかし中東の刻々と変わるニュースに耳をそばだてると、事態は急を要している。複雑な国際情勢だということを知る。平和という言葉を強く噛みしめてみる。（Y・U）

人々が残す歴史は新しい年を迎えた。一年の計は元旦にありと、古く人が伝えるように、物事は最初が肝心だ。物を決めるも、事を起こすも、機会を捉えるのには物事の初めが良い。夢を描く好機の新年に、思いを決められる心を持ちたい。（T・Y）

一年の締めくくり

12月23日、等々力地区公民館では育成会の子どもたちが参加して「餅つき大会」が行われた。

1年間お世話になった公民館に感謝して、午前9時から大掃除を行い、新しい年を迎える準備を整えた。24回を数えるという恒例の餅つきは、小学生を中心に子どもたち40人余りが参加して、同館前で行われた。

低学年生は2人1組になり杵（きね）を持ち、大人と一緒に「ヨイショ！」の掛け声とともに餅をついた。

出来上がった餅は、あんこ、きな粉、みたらし、ごま、くるみの5種類で味わった。

子どもたちは「杵は重かったが上手に餅をつけた」「初めて参加したので楽しかった」と笑顔で答えてくれた。

息を合わせて

花：スイセン
絵：加々美　豊

吹雪をついて初詣ウォーキング

三郷公民館は1月1日、昨年に続き2回目の初詣ウォーキングを開催した。名勝「住吉神社」を目指して、午後1時のスタートを待ちかねた40人のウォーキングファンが集まった。

公民館の前庭で入念に準備体操をした後、往復5キロほどの行程に出発した。千國公民館長の史跡解説を聞きながら、雪の舞い散る三郷路を歩いた。準備体操から参加者をリードしていたスポーツ推進委員の松田久雄さんは、愛犬アイ（瞳）ちゃんと一緒に幸子夫人と家族参加でウォーキングを盛り上げていた。

参拝後は来た道を再びウォーキングで戻り、お楽しみ抽選会で疲れを癒やしながら親睦を深めた。

手回しオルゴールを鑑賞

明科いいまちサロンが12月24日に開かれ、明科公民館に70人ほどが集まった。紅茶と手づくりパウンドケーキや果物がテーブルに並び、世界でも珍しい手回しオルゴールを鑑賞した。

奏者は穂高出身の臼井則孔（のりこ）さん。「皆さんもご一緒に」と呼びかけながら『みんなで手をたたこう』『母さんの歌』『ふるさと』など、オルゴールのメロディに合わせて澄んだ歌声を会場いっぱいに響かせ、参加者も一体となり楽しく歌った。

手回しオルゴールは、穴が空いている厚めの紙でできたテープを差し込んで回すとメロディーが鳴る仕組みで、テープは曲によって長さが異なるが、3メートル前後を臼井さんが作成するという。

古きを尋ねて

⑯豊科あめ市

戦国時代の武将、上杉謙信が武田信玄に「塩を送った」ことが由来とされ、松本に塩が到着したといわれる1月11日に、当時塩を運ぶのに使った袋の形をした飴が売られるようになったのが始まりとも言われている「あめ市」。安曇野には明治に入ってから商店街のお祭りという形で入ってきた。

豊科では、商家の多い成相区と新田区で相次いで「福俵曳きと奉納」「神輿（みこし）練り歩き」という独特な形で引き継がれ、奇祭とも言われている。

今年は1月11日が宵祭り。子ども神輿や本神輿が街中を練り歩いてにぎやかに始まった。翌12日は本祭り。午前に「福俵曳きと奉納」が行われ、午後には「神輿練り歩き」が行われた。

「わっしょい、わっしょい」という威勢の良い掛け声とともに、子ども神輿、本神輿、そして今年は女（芸者）神輿が復活して花を添えた。芸者神輿は昭和30年代の数年間、当時の花街の芸者たちが冬ではなく夏の時期に担いだと言われているが、写真などの記録はほとんどなく、知る人も少なくなっている。芸者神輿の本体も老朽化が進み、補修が必要な状況で、今後続けていくためには、体制も含めての整備が課題となるようだ。

本神輿と女神輿は午後2時から街中を練り歩き、各商店などで準備されたご祝儀やふるまい酒をいただき、「練り」と呼ばれる、神輿を左右に大きく振り回す動きを納める。「飴を練る」「福を練る」が語源とも言われ、家内安全、商売繁盛、無病息災を願う。

夜7時過ぎに、新田区の祭殿前で、成相区と新田区の両神輿頭が上半身裸で榊（さかき）を持ち、屋根に乗った二つの神輿がぶつかり合い、練り合う勇壮なクライマックスを迎えた。お互いの区の福を祈り、労をねぎらった。

最後にそれぞれの区に戻り、祭殿前で「コマ回し」と言われる激しい練りを奉納。神輿頭が代々引き継がれ、このような祭りも継承されていくのだろう。

グループ紹介

三郷昆虫クラブ

三郷昆虫クラブは、子どもたちに虫や自然と関わる面白さを体験してもらおうと24年前（1990年）に発足した学芸サークルです。現在、三郷地域在住者を中心に、小学4年生から中学3年生までの15人が年間を通じて活動に参加していますが、中には6年間継続する子どももいます。また、大学生や社会人になったOBのクラブ員が活動を手伝ってくれています。

昆虫クラブの主な活動内容は、毎月1～2回の自然観察会をベースに、昼夜問わず虫づくめの2日間を過ごす「昆虫合宿」やビオトープ池の整備、雑木林の手入れ作業、昆虫展など多岐にわたります。

自然観察会では、ただ虫の種類を覚えるのではなく、その環境のありようを理解することに努めています。例えば地元の雑木林で夜間灯火採集を行ったときには、下草に棲むシロヒトリばかりが数十匹も集まり、樹林性の種はほとんど来ませんでした。子どもたちはがっかりする一方で、講師の先生の「近くの果樹園への薬剤散布が雑木林にかかり、樹木の毛虫がほとんどやられてしまった」という話に驚いていました。

一見、緑豊かに見える林も「虫」を通してみると違う世界が見えてくることを学びました。今後もこのような視点を持って活動していきたいと考えています。

地区公民館だより

塩川原地区公民館

明科町史によると、塩川原地区の歴史は縄文時代にさかのぼる。遺跡があり、そこで稲作が早くから行われていたことが分かった。松本平を潤した水が犀川となり集まってくる段丘地帯でもある。「かんだち森」の頂上に立ち安曇野を一望するとき、北は白馬の奥から、南は塩尻の街を望むパノラマにしばし言葉が出ない。絶景の眺望地点だと思う。先人が厳しい苦労を重ねながら築いた五ヶ用水が流れ、今日の地域の生活文化の元を形作っている。

人口は170人、どの地域でも共通する高齢化の波を厳しく受け止めている。今年度の大きい事業は、懸案の公民館の外部塗装工事であった。10月21日に着工、11月7日に受け渡し完了。市の補助金を得て総額100万円の事業となり、無事完成することができた。

耕地総代と公民館長は兼任となっており、毎日行事に追われている。季節の花が咲きだす4月には敬老会、長峰荘に23人が元気な姿を見せてくれた。

ナイターソフトボールが始まると、明科地域地区公民館対抗球技大会や、34回という伝統を持つ川西地区親睦ソフトボール大会が行われる。ここ数年は選手がそろわない悩みを持っているが、同じく塩川原区を構成する原、みどりヶ丘地区公民館も共通の悩みを持っているので、協力し合うことでチームを編成して参加している。

毛虫の大発生で2回にわたり、公民館前の桜の木を消毒作業。市民運動会へ参加、好天の中で精いっぱいのプレーを楽しむ。成績がからむ競技の後に互いの健闘を喜び合う光景は、この日だから見られる。結果は12位だった。いきいきサロンで新蕎麦の講習会。その後で打ちたての蕎麦を味わう。プロ級の蕎麦打ち名人の指導があり、好評を得ている。

（塩川原地区公民館長　堀内嘉雄）

塗装工事が完了した公民館

私は一生懸命

信濃雅楽会

山越　みさ子さん（穂高新屋）

私たちは音楽教育として西洋音楽を学んで育ちました。そのため、日本の音楽文化「雅楽」に触れる機会はほとんどないことと思います。

信濃雅楽会では毎週水曜日の夜に穂高神社に集い、稽古を重ねています。主に笙（しょう）・篳篥（ひちりき）・横笛の三管で合奏に励みます。笙はマウスオルガンとも呼ばれ、パイプオルガンに似た楽器です。篳篥はオーボエと同じダブルリードの楽器で、主旋律を担当します。横笛は龍笛（りゅうてき）・高麗笛（こまぶえ）・神楽笛（かぐら）と、長さや太さの異なる笛を吹き分けます。どの管も、吹きこなすまでには相当な練習が必要です。

現在は、6月に開催する第3回定期演奏会に向けて、管絃（音楽だけを演奏するオーケストラ）と舞楽（雅楽の演奏に合わせる舞）の練習中です。微力ながら伝統文化を広めていければと思います。

昨年の定期演奏会にて（2列目中央が山越さん）

萬人壱首

～短歌～

老いてなお雛の祭りに華やぎて
子等の笑顔に甘酒ふるまう
柏原　竹内　香代子

大正も遠くなりたり共に老い
日向の部屋に熱き茶を呑む
住吉　児嶋　たかの

―俳句・短歌の作品をお寄せください―

〒399-7102
安曇野市明科中川手2914番地1
教育部生涯学習課内
安曇野市公民館報編集事務局　宛
TEL.62-4565　FAX.62-3525
E-mail:shogaigakushu@city.azumino.nagano.jp